

出水だより

防災まちづくり版 第一号

発行
出水住民福祉
連合協議会
出水学区自主防災会

『防災まちづくり』

の取組を進めてまいります！

出水学区は、路地や京町家、こまやかなコミュニティなど京都らしさが残る一方で、幅の狭い道や袋路（行き止まりの路地）があり、古い木造家屋が密集している所もあります。大規模な地震が起きた際には、建物の倒壊や火災の燃え広がりの可能性が高く、避難や救助に支障をきたすなど、防災上の課題を抱えています。

こうしたことから出水学区では、**安心・安全に住み続けられる災害に強いまち**を目指して、平成二十八年度から、京都市や専門家と連携し、「**防災まちづくり**」に取り組むことになりました。今後、皆さんと一緒に学区全体で取り組んでまいりますので、ご協力をよろしく願います。

◎平成二十八年度は、

「防災まちあるき」に取り組みました

昨年十一月十九日、二十七日、十二月三日の計三日にわたり、『防災まちづくり』の取組の第一歩として、身近な防災上の課題を確認することを目的に、『**防災まちあるき**』を実施しました。（詳細は、裏面をご参照ください。）今後は、今回確認した情報をもとに、「すぐにできる対策（※下欄参照）」を検討し、実現に向け、取り組んでまいります。みなさまのご協力を、よろしく願います。

すぐにできる対策に

取り組みましょう！

地域の防災性を高めるため、京都市では様々な助成制度が用意されています。一人ひとりの取組が地域の安全性につながります。みなさんも検討してみませんか？

（問合せ先：京都市まち再生・創造推進室 ☎075-122-3503）

★出水学区でもすでに

実施しています！

○袋路に緊急避難扉を設置する。

2方向避難できない袋路に、緊急避難扉を設置する補助事業があります。みなさんご存知の「中村公園」にも緊急避難経路の扉が既に設置されています。一度、ご覧になってみて下さい。

○空き地を防災ひろばに整備する。

ひろばの整備費 上限 200 万円

○古いブロック塀を安全につくり替える。

補助事業あり ※工事内容により金額は変わります

○扉の設置費 上限 30 万円

ここに設置

※これらの他にも、地域の防災性を高めるための補助事業があります。

防災まちあるきを報告します！

「防災まちあるき」では、お住まいの町の周辺を中心に、数名のグループで歩き、道幅を測り、まちの安全性を点検しました。終了後はグループで危険箇所を確認し、地図上に整理しました。この成果は、「すぐにできる対策」や計画づくりに役立てます。



雨にもめげず…



道幅を測ったり…



路地の奥まで確認しました

【ご参加いただいたみなさんのご感想など】

- ・実際に歩いてみると気づくことが多く、良い体験だった。
- ・植木や自転車など、路地に物をあまり置かないようにしたい。
- ・意外と空き家が多い。
- ・袋路になっていたり、狭隘な路地が多く、危険を感じた。
- ・路地に物を置かず、逃げ道を確保するべきだ。
- ・他町も含め、人と人とのつながりが大事だ。
- ・避難所の道具等の整備はもちろん、避難所に行けない人への配慮も必要だ。
- ・各町単位でまちあるきをして、アイデアを出したい。キケンマップがあればありがたい。
- ・高齢者の避難のために、若い住民の助けを借りたい。
- ・ハード面の改善も大事だが、顔見知りになる・声掛けなどソフト面も重要だ。

防災まちづくりの進め方 今後の取組の流れ

平成二十八年度は防災まちあるきを実施し、まちの現状把握を行いました。今後、把握した課題を共有し、「防災まちづくり計画」を平成三十年度を用途にまとめいき、以降、その計画に基づき取組を継続していきます。また「すぐにできる対策」も並行して取り組んでいきますので、ご協力をお願いします。

まちの現状把握

（防災まちあるきの実施）

地域の現状を把握し、防災上の課題や災害時に役立つ資源を把握します。



「具体的な防災まちづくり対策」の実践

学区内の今ある危険を取り除く「すぐにできる対策」を進めます。また行事等でPRし防災の機運を高めます。

★すぐにできる対策の例

- ・袋路の二方向避難確保
 - ・トンネル路地の防災性向上
 - ・ブロック塀の改善
 - ・防災広場の整備など
- (※表面参照)

「防災まちづくり計画」の検討・作成

防災性を高めるためのまちの将来像、「防災まちづくり」の基本方針の検討・計画づくりを行います



★防災まちづくり計画とは↓災害の被害から人命と財産を守るために、継続して取り組む考え方や具体的な取組等をまとめるものです。

継続的な防災まちづくりの実践

計画に基づき、「災害に強く、住みやすいまち」を目指した取組を継続して進めていきます。

31年度～

30年度

29年度

28年度